

# チバニアンガイド 養成講座

# 1、活動の目的

- (1) チバニアンへの関心を高める。
- (2) 市原市や南市原への興味を持ってもらう。
- (3) 地域おこしの起爆剤となる。
- (4) シルバー世代にガイド活動を通じた生涯学習の場が提供できる。
- (5) 地元住民が地域への理解を深め、地域に対する誇りを持てる。

## 2、今回の活動内容

### (1) 養成講座

ガイダンス1回、養成講座全9回を行いました。

- ①鎌田正男先生：観光ガイド学
- ②堀内正貫先生：チバニアン研究の歴史
- ③岡田誠先生：古地磁気学
- ④奥田正明先生：花粉化石と古環境学
- ⑤高橋直樹先生：房総の地質学
- ⑥泉賢太郎先生：生痕化石の研究
- ⑦吉村・八木先生：田淵の地層と地形（座学）
- ⑧同：田淵の地層と地形（フィールドワーク）
- ⑨熊谷勝弘先生：養老溪谷の地形と地層



令和1年8月22日 第3回養成講座の  
岡田先生の授業。南総公民館の視聴  
覚室にて行われました。

同日の授業風景。この日は千葉日報  
と朝日新聞の取材がありました。





10月2日県立中央博物館の高橋先生の  
講義の様子

11月17日県立中央博元地学科長  
吉村先生の講義の様子



## (2) ガイド定例会

月に一度のペースで「ガイド定例会」を開きました(養成講座開催中は約2か月に1回)。

- ①ガイド中に気づいたことの共有化、反省点などの討議
- ②スケジュール確認など情報の統一
- ③模擬ガイドによる研鑽
- ④日々進化している研究内容の更新

などを行います。2018年度は4回、2019年度は5回の定例会を開きました。

模擬ガイドの様子



露頭前で説明を聞くガイド研修生



### (3) 実地ガイド

ガイドの存在をオープンにする前から「研修」として、2019年度は約40件のガイドを実際に行いました。多くはふるさと文化課に「せっかく行くのだからガイドはないのか」と問い合わせをしてきた団体で、公民館のバス研修、職場や地域の親睦会などが多いようです。

一期生がガイドを行い、二期生が見学するという形で実施したことも。机上で理論を学ぶだけでなく、実践を通して考えるというのは重要だと思います。

仮駐車場で一般の見学者とガイドを依頼してきた見学者との車の接触事故に遭遇したり、不測の事態への対応も経験しました。



実際のガイドの様子。派手な帽子をかぶって目立つように！



## (4) 他団体との交流

養成講座を立ち上げるときに相談に乗っていただいた「銚子ジオパーク」岩本学芸員から、8月に銚子で開かれた日本第四紀学会の展示ブースへのご招待を受けました。

当日はシンポジウムも開かれ、5名のガイド研修生が銚子を訪れ、他の出展ブースの方々や、銚子の皆さんとの交流を深めました。

銚子の方々は、チバニアンビジターセンターの開館の折に市原を訪ねてくださいました。現在はセンターに銚子ジオパークのパンフレットを置き、先方にはチバニアンのリーフレットを置いてもらって今後とも協力し合っていくことを約束しました。



見学者に説明するガイド研修生。  
（一番左と一番右の二人）



8月25日(日)銚子市で開かれた日本  
第四紀学会シンポジウムでの「チバニア  
ン展示ブース」

## (5)ガイドの本格始動



①12月15日(日)市長も来訪して、チバニアンビジターセンターが開館。同時にガイドも本格始動しました。  
(ガイド依頼第1号となった匝瑳市の皆さんと開館のあいさつをする小出市長)



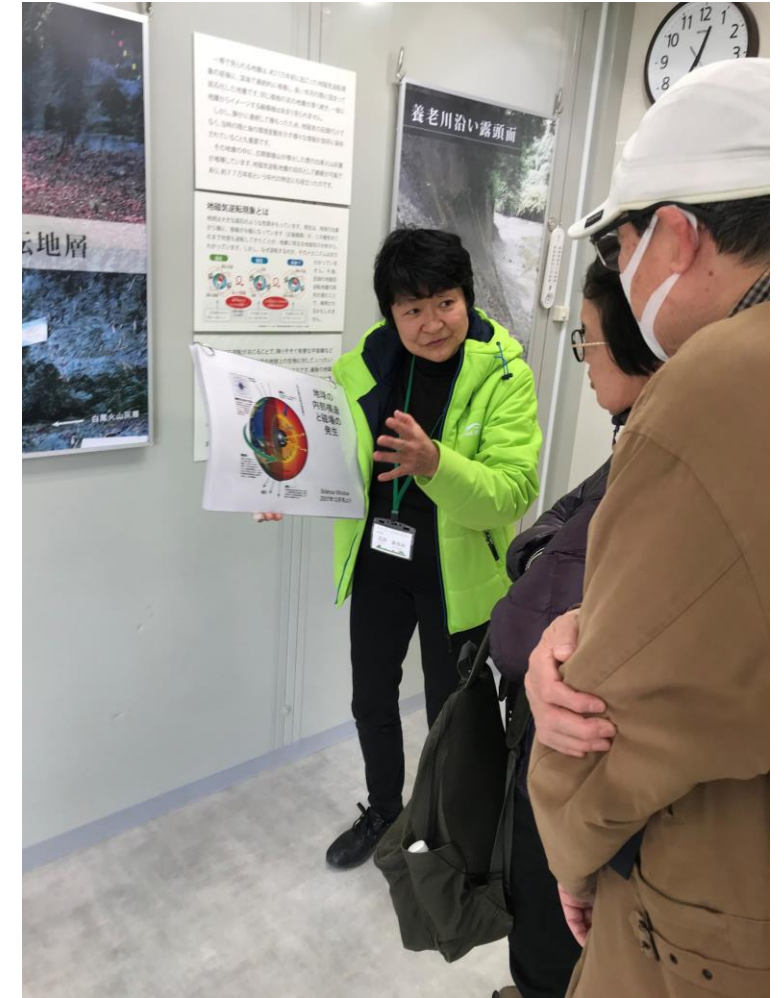
開館セレモニーが終わり、記念すべき  
第1回目のガイドをする、一期生の野口ガ  
イド。



②1月17日には正式に「チバニアン」がGSSPに認定され、見学者が一気に倍増。

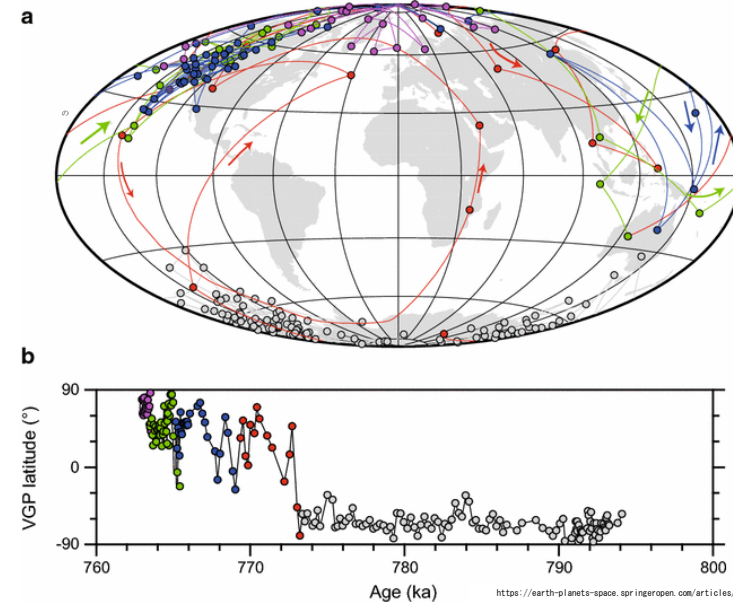
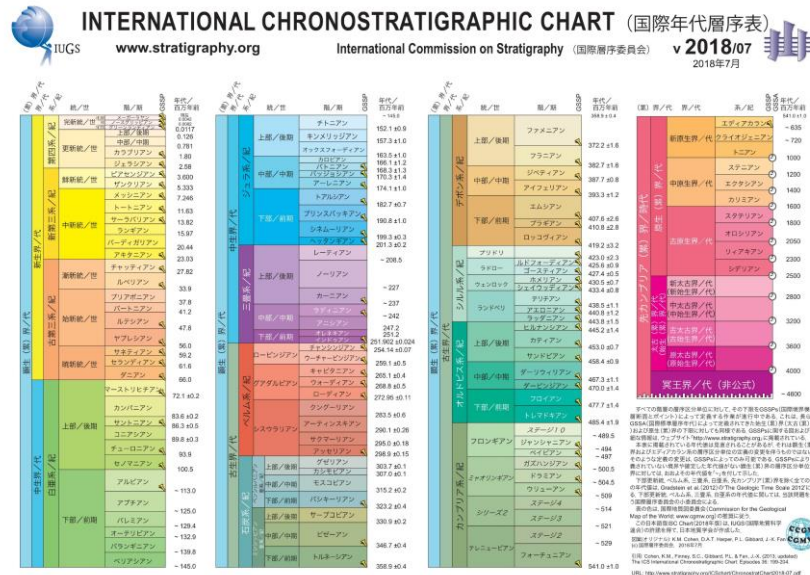
急遽、予約ガイドだけでなく、ビジターセンターで来訪者への説明もすることになり、大忙しに！決定の数日後にはチーバ君も来てくれました。

ガイドが本格始動した12月15日から3月末までのガイドの依頼件数は約80件。コロナ禍でキャンセルになったものもありますが、全員で頑張りました。



### ③本格始動に合わせて「台本」「紙芝居(パネル)」を一新

屋外の、しかも露頭前で説明するには視覚に訴える「パネル」が必須です。下の2枚はその一部です。これらを約20枚用意し、説明とともに掲示します。またガイドが誰でも一定レベルと同じ内容で説明できるよう、これらのパネルを利用した「台本」も作っています。もちろん講師の先生方に間違いがないかをチェックしていただき、万全を尽くしています。



# 3、活動の成果と効果

## 活動の目的(1)(2)について

マスコミを通じての注目の高さもあり、非常に関心が高いと思います。またそれには「見ただけではただの崖」であるチバニアンの価値を発信できるガイドの存在が大きかったと自負しています。

## 活動の目的(3)

地域おこしに関しては、まだ世間の関心を集めてから2年ほど、ということもあり、具体的な成果はありません。ただ地元企業の中に「チバニアン」の名称を付けた商品を開発したり、提案したりしてくれるところも出てきました。NPO法人化の申請も済み、これからの課題として、地域おこしにどのように生かしていけるか、考えていきたいと。思います。



#### 活動の目的(4)シルバー世代の生涯教育

平日昼間の活動が可能、ということから必然的にガイド研修生の年齢がシルバー世代となることは否めません。そのため定期的なガイド養成が必要です。

現在登録しているガイドはみな学習意欲が高く、講座や定例会への出席も積極的で生涯教育」という点では胸を張って「成功している」といえると思っています。

#### 活動の目的(5)地元住民の意識

地元田淵では、あまりに「身近」すぎ、あるのが「当たり前」すぎて町会全体の関心となると、むしろ市内の他地域の方のほうがあのような気がします。この点については後述します。

一方で田淵わかば会のメンバーは、ガイドやボランティア活動の重要性を認識するようになり、協力して活動を推進していけるようになったと思います。

## 4、補助金の使途・金額

### (1) 支出内訳

科目	予算	実績	摘要
講師謝金	25,000	60,000	
講師・ガイド交通費	126,500	108,118	
会場費	8,100	11,250	公民館会議室
消耗品費	43,000	31,678	
通信費	10,000	5,573	
保険料	25,000	39,680	見学者・ガイド用
人件費	159,000	0	
計	396,600	256,399	

※今年度のガイドは、交通費は支給しましたが人件費はボランティアで行いました。

## (2) 収入・決算

科目	予算	実績	摘要
補助金	300,000	193,000	
事業収入	80,000	41,250	ガイド料
田淵わかば会より	16,600	22,149	
計	396,600	256,399	

※ビジターセンターのオープンが11月1日から12月15日に延期になったため、ガイド収入が予算より少なくなりました。

# 5、活動の課題

## (1) 地元や地域への貢献について

先述したように、身近過ぎる地元の観光地にはなかなか足が向かないようで、田淵町会全体がみな関心が高い、というわけにはいっていないのが現状です。しかしこの約3年間の私たちの活動を見て、わかば会や老人会以外で「草刈りを手伝いたい」「ガイドの勉強をしてみたい」という地元の人も出てきています。町会、加茂地区、南市原を対象にした「ガイドによる講座」など啓蒙活動が必要だと思います。

2020年度には田淵町会として正式にチバニアンガイドに依頼して講座を開きたいという話も受けています。まず「知る事」、これがすべての原点だという思いで活動していきます。

## (2)「田淵わかば会」と「ガイド組織」について

田淵わかば会は2006年から地元でボランティア活動をしており、2016年からチバニアン周辺的环境整備を行っています。2018年度から主に代表石井が中心となり、チバニアンガイドの養成を行ってきました。現在はメンバーの中で定年を迎えるなど養成講座に出席できる者がガイド活動を共に行うようになり、また市原市から委託を受けてビジターセンターの管理もしています。

ガイド組織は地元田淵住民以外に、広く市原市全体、近隣の市町村に住むメンバーが活動しており、先述したようにみな非常に熱心です。

どちらも課題は後継者問題です。これを解決するために最も大切なのはやはりチバニアンの重要性を訴え、興味関心を高めていくことだと思われま

す。

## 6、今後の活動と展望

- (1) 地元田淵、加茂地区、市原市・・・と普及啓蒙活動を行っていくこと。
- (2) チバニアンガイドの養成を三期生、四期生と続けていくこと。
- (3) シルバー世代の生涯学習の場を提供すること
- (4) 学校教育の一環としてチバニアンを生かしていくお手伝いをする事。
- (5) 地域おこしの一環として、観光や産業などを盛んにしていくことを視野に入れたい。

今後ともよろしくお願ひします。ご清聴ありがとうございました。



チバニアンガイド一期生、二期生の皆さん(2020年2月29日)